

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
6  
2006



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

## 患者様一人ひとりに合わせた栄養管理に、真摯に取り組む

栄養部 大久保 郁子 部長



体脂肪量や筋肉量を測定する体組成測定器

栄養部では、入院患者様の食事提供、栄養食事指導、栄養療法外来、栄養サポートチーム（NST）で、入院から外来まで患者様のトータルな栄養管理を行っています。

入院患者様の食事提供と栄養食事指導では、患者様の1日も早い快復と社会復帰を願い、安全で栄養管理の行き届いた満足される給食を医療の一環として提供。入院患者様は500名以上いらっしゃいますが、個々に栄養状態や健康状態が異なり、食事は一人ひとり違うと考えて栄養管理を行っています。吟味した食

材を使うのはもちろん、温かいものは温かいまま、食器や盛り付けは目で楽しめるこども大切です。一般食は2種類用意し、患者様に選んでいただくことができます。当院の病院食は他の病院からも高く評価され、患者様のアンケートでも好評です。

栄養サポートチーム（NST）は、医師、管理栄養士、薬剤師、看護師を中心に、栄養状態を専門的に評価し、改善策を検討します。当院のNST活動は平成16年4月、全科的に開始されました。対象となるのは、何らかの疾病や病状により低栄養をきたした患者様や、手術処置後に

低栄養をきたすおそれがある患者様、また生活習慣病や炎症性腸疾患等といった長期にわたる栄養コントロールが必要とされる患者様です。疾患の治療や体力回復に大きな影響を及ぼす栄養状態を、チームでサポートしています。

栄養療法外来は、国立大学病院では初めての試み。



### PROFILE

おおくぼいくこ◎1974年神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程卒業。1999年愛媛大学附属病院へ。2003年栄養部副部長、2006年栄養部部長就任。家に帰ると、時間と仕事を忘れ、愛犬ラブラドルのマックスと遊ぶことが楽しみ。



基礎代謝を測定する間接カロリーメーター

低栄養、低体重の方のみならず、過栄養や肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病や集中的な栄養管理が必要な疾患をお持ちの患者様に、医師や管理栄養士が中心となって、身体の異常と食生活や運動を含めた生活環境を総合的に分析し、計画的に治療を実施する専門外来です。まず診察、心電図、動脈硬化、内臓脂肪、血液検査のチェックをします。体組成測定器で体脂肪量、体蛋白量、筋肉量、水分バランスなどを測定。間接カロリーメーターで体のエネルギー消費量を測定し、基礎代謝での脂肪燃焼度などを詳しく調べます。栄養調査では摂取したエネルギー量、蛋白質質、脂肪量などを計算。日常でもライフコーダー（万歩計）をつけていただき、普段の生活や運動によって消費されたエネルギー量を測定します。これらのデータから個々人の食生活、運動、生活習慣での問題点、改善点を提示するカンファレンスを2週間毎に実施し、3ヶ月を区切りに効果を判定します。これまで多くの方々に良い効果が出ており、喜びの声を沢山いただいております。

## 一秒でも早い適切な治療と、脳卒中センターの本格的稼働を実現

脳神経病態外科学(脳神経外科) 渡邊英昭 医師



### PROFILE

わたなべひであき◎愛媛大学大学院医学系研究科・脳神経病態外科学講師。1992年愛媛大学医学部卒業、医学博士。脳卒中、脳血管障害を専門に活躍。趣味は旅行。もう一度行きたい場所は、オーロラ観賞ができる、温泉やスキー場があり、魚がおいしいアイスランド。

私は脳卒中センターと脳神経外科に所属し、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの急性期脳卒中疾患に対し、脳卒中専門医として外科を中心に診断から治療までの診療を行っています。現在、日本人の死因の第3位になった脳卒中は、健康な人が突然発症して後遺症を残したり、死に至ることもある病気です。急性期脳卒中疾患は1分1秒でも早く、適切な診断、治療を行うことで救命、また社会復帰ができます。その治療は注目されており、最近は外科的治療より内科的治療が増えつつあります。

私のモットーは一人ひとりの患者様にベストを尽くすこと。当センター、また脳神経外科では患者様の症状に合わせたオーダーメイドの治療を行っています。脳卒中治療は患者様の意識がない場合も多く、ご家族や周囲の方にもわかりやすく治療

について説明することも心がけています。

脳卒中治療の一翼を担う脳卒中センターは平成16年度に設けられ、脳神経外科病棟内に脳卒中専門治療病室(Stroke Care Unit: SCU)を新設しました。しかし、センターの本格的な稼働にはまだ至っていません。脳卒中の治療は一刻を争うため、限られた時間でどこまで治療できるかが重要なのですが、それに対応する体制やシステムができていないためです。センターが本当の働きをするには、越えるべきハードルが多々あります。まずは、24時間態勢で診療、治療に当たるための専門医や看護師など、スタッフを確保することが急務です。

まだ当センター専用の窓口はございませんが、脳卒中や脳血管障害についての相談はいつでも受け付けておりますので、脳神経外科までお気軽にご連絡ください。

## 適切な治療と遺伝子研究で、糖尿病のオーダーメイド医療を目指す

分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 大澤春彦 医師



### PROFILE

おおさわはるひこ◎愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学助教授。1984年千葉大学医学部卒業、医学博士。1997年愛媛大学医学部臨床検査医学(糖尿病内科)助教授、2006年現職。遺伝子検査による糖尿病発症予防とオーダーメイド医療の実現が目標。趣味は洋楽などの音楽鑑賞と読書、時間があれば旅行。

私は糖尿病の専門医として診療をしています。糖尿病患者数は急増しており、その発症予防と進展防止が急務です。糖尿病の恐ろしさは、慢性の高血糖により血管が障害されることです。その三大合併症として網膜症、腎症、神經障害があります。また、糖尿病は動脈硬化の危険因子であり、虚血性心疾患、脳梗塞、動脈閉塞などのリスクを高めます。生活習慣病の代表である2型糖尿病は、高血圧、肥満、高脂血症といった他の動脈硬化の危険因子をよく合併します。当科では、経験豊富な糖尿病専門医が診療にあたっています。糖尿病を血管病としてもとらえ、複数の危険因子をコントロールし、合併症の予防と早期治療をめざしています。さらに、当院の循環器科、眼科、神經内科、皮膚科などの専門医とともに総合的に診療をしています。また、看護師、薬

剤師、栄養士などのコメディカルとも連携し、患者様の生活の質を改善するよう努めています。インスリン分泌が枯渇する1型糖尿病では、インスリン頻回注射と血糖自己測定による強化インスリン療法を行っています。当科には、インスリン投与量を時間帯毎にプログラムできるポンプが5台あり、必要に応じて外来でも厳格な治療が可能です。

新たな診断・治療法を確立するために、糖尿病の原因遺伝子と発症機構を解明する研究にも力を入れています。最近、2型糖尿病の原因遺伝子の一つを見出しました。インスリン拮抗作用を有するレジスタンというホルモンの血中濃度を決定する遺伝子の一塩基の違い(SNP)です。今後、遺伝子検査により、2型糖尿病の発症予防や個人個人にあった治療法を選択するオーダーメイド医療の確立を目指します。

# 愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

## ひとりで悩まないで! 「子育て支援外来」

### 周産母子センター



少子化、核家族化が進む中で、分娩後、育児に不安を抱えたまま退院する褥婦に対して、助産師による継続した支援が求められる中、「ママ、ひとりで悩まないで」という強い思いから、平成17年3月に私たち周産母子センター助産師スタッフによる

「子育て支援外来」を開設しました。毎週火曜日・金曜日の午後、完全予約制で私たちが個別に丁寧に対応を行っています。現在は母乳栄養育児に関することが中心の子育て支援外来ですが、来院された褥婦さんから「母乳についての悩みがあったが、問題解決の方法を教えてもらった。」「精神的な励ましがあり、専門家に相談できるという安心感があった。」「心にゆとり

ができ、初めての育児も頑張ることができる。」などの感想が多く寄せられています。

子育て支援外来の更なる充実を図ることにより、子育て中の皆様に、「かけがえのない生命の大切さ」をお伝えできればと日々活動しています。

#### 周産母子センター

センター長：石田也寸志

問合せ先（産婦人科外来）TEL:089-960-5572 ご相談はどなたでも受け付けています。お気軽にどうぞ。

## 患者様のニーズにお答えします。お気軽にご相談ください。

### 創薬・育薬センター

当センターは新しい治療薬の開発と使用技術の向上を推進するための治療の臨床研究を実施し、支援する組織で、専任医師と専任のCRC（治験コーディネーター：薬剤師と看護師）、事務職員が常勤し、臨床試験を支援しています。また、本院と関連のある医療機関との連携を強化し、地域の医療機関へCRCが訪問して支援する「ネットワーク治験」も実施していますので、お気軽にお問合せください。



#### 創薬・育薬センター

センター長 野元正弘

TEL:089-960-5914 FAX:089-960-5910

<http://www.m.ehime-u.ac.jp/hospital/souyaku/index.htm>

### 医学部広報室

平成18年4月に設置された医学部広報室です。医学部・附属病院のホームページなど様々なコンテンツ作成を通じて、患者様のお役に立ちたいと願っております。



また、ホームページからの問い合わせ窓口も担当しています。お気づきのことがあれば、どうぞ下記までご連絡ください。お待ちしております。

#### 広報室

広報室長 田中盛重

TEL&FAX:089-960-5943

E-Mail:kohositu@m.ehime-u.ac.jp

### 平成18年度 治験実施優秀賞 表彰式を実施

平成18年8月11日（金）に愛媛大学医学部附属病院において治験実施優秀賞表彰式を実施しました。この表彰は平成16年度に制定されてから、今年で3回目となります。治験（新薬開発のための「治療を兼ねた試験」）において一定の症例数以上を実施した担当医師あるいは基準症例数には達しないが、特に複雑で難しい治験を実施した担当医師の中でCRC（治験コーディネーター：治験を円滑に行うためのスタッフ）が推薦する医師について、創薬・育薬センターからの推薦に基づき当該1年度5名程度として次年度に病院長が表彰するものです。

今回は、平成17年度に10症例以上の治験を実施した日浅陽一（第三内科）、俊野敦子（眼科）、間島直彦（医学系研究科運動器学分野）、森豊隆志（創薬・育薬センター）の4人の医師が選考され、横山雅好病院長から、表彰状と副賞の目録が授与されました。

### 編集後記

朝夕めっきりと冷え込んできましたが、皆様いかがお過ごですか。愛大病院広報誌INVITATIONの秋季号をお届けします。本院はこの夏、第二回目の病院機能評価を受けました。一回目の合格は5年前。今回はさらにバージョンアップしたVer.5へのチャレンジでした。この一年間、病院一丸となって良い病院とはいかなるものかを考え、準備してきました。結果はもうすぐ通知される予定ですので、請うご期待です。

私達は、これからも地域に生きる大学病院として、より愛され、信頼される病院を目指してがんばってまいります。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会  
委員長 檜垣實男

◎表紙の人  
総合臨床研修センター長 高田清式  
—研修中（スタディルームにて）—



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)

ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>